

第24回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成26年6月27日(金) 18時30分～20時50分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 19人 *欠席 2人 千ヶ崎委員(代理出席:林氏)、中村委員(代理出席:諸橋氏)
(2) 事務局 6人 *教育委員会 米満教育総務部長
企画課 大崎課長、伊原統括管理主事、市倉課長補佐、
小口主査、安井主査補
(3) 傍聴者 9人

4 報告・議題

- (1) 平成26年度協議会委員の確認について
(2) 【報告1】地元代表協議会における主な協議概要
(3) 【報告2】平成26年度に算出した推計(速報値)による千城台地区の小・中学校の状況
(4) 【報告3】前回協議会以降の動きについて
(5) 【議題1】千城台地区の小・中学校の適正配置について
(6) 【議題2】次回開催日時・場所

5 会議資料

- (1) 平成26年度千城台地区学校適正配置地元代表協議会委員名簿
(2) 資料1:地元代表協議会における主な協議概要
(3) 資料2:協議の進め方
(4) 資料3:平成26年度児童生徒数推計(速報値)
(5) 資料4:小学校の統合シミュレーション
(6) 参考資料:平成25年度推計による小学校の統合シミュレーション
(7) 別紙:千城台地区学校適正配置地元代表協議会だより第5号

6 議事の概要

- (1) 平成26年度協議会委員の確認
「平成26年度千城台地区学校適正配置地元代表協議会委員」について確認・承認され、教育委員会ホームページに公開することとした。
- (2) 【報告1】地元代表協議会における主な協議概要
事務局がこれまでの協議状況について説明した。
- (3) 【報告2】平成26年度に算出した推計(速報値)による千城台地区の小・中学校の状況
事務局が26年度に算出した児童生徒推計(速報値)による小・中学校の状況について説明した。
- (4) 【報告3】前回協議会以降の動きについて
事務局が前回協議会以降の動きについて説明した後、各協議会委員から報告を行った。

(5) 【議題1】千城台地区小・中学校の適正配置について

事務局が資料4「小学校の統合シミュレーション」を中心に説明を行った後、協議を行った。その結果、再度、中学校の統合協議に戻ることにし、次回協議会で引き続き、統合時期を含めた協議を行うことが確認された。

(6) 【議題2】次回開催日時・場所について

今後の協議会については、水曜日を基本に行うことが確認され、次回協議会は、平成26年7月30日(水)18時30分から20時30分、場所は千城台公民館にて開催することとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶 (氏家会長)

前回協議会から4か月が経ち、新しく選任された方々も多く入り、26年度の児童生徒推計など新しいデータを踏まえて、今後の方向性を決めていきたいと考える。

前回協議会では、「中学校の統合については、適正配置は必要であるが、当面見送る」という方向性を大筋の合意で協議したが、全会一致の合意は得られなかった。

「協議会だより第5号」も、第24地区連の全家庭に配布した。地元代表協議会で、現在話し合われている状況について、地域住民に再度周知したところである。

本日は、現在の状況を踏まえ、将来を見通して具体的に検討していきたいので、よろしくお願いする。

(2) 教育委員会挨拶 (大崎課長)

平成22年2月の第1回協議会から数えて、今回が24回目となり、氏家会長、山崎副会長、菅原副会長には、協議会の運営にお骨折りを頂き、本日を迎えられることに心から感謝を申し上げる。

委員の方々には、大変お忙しい中、お集まりいただいている。役員改選等で、多くの方が新しく委員になりましたが、各団体の代表として様々な角度から議論をお願いしたい。

本協議会では、昨年度6回の協議を行い、小・中学校の統合について論点を整理し、「小学校の具体的な統合の組み合わせ」及び「中学校の統合の必要性」について話し合っていたが、全会一致の要望案とその合意は、まだ得られていない状況である。

本日から今年度の協議が始まるが、新しい児童生徒推計の速報値を用い、これまでの協議を総括して、小・中学校の適正配置における一定の結論を出すべく、引き続き、地元代表協議会の皆様による真摯なご協議をよろしくお願いしたい。

(3) 報告

報告(1) 地元代表協議会における主な協議概要

〈山崎議長〉 これまでの協議状況について、事務局から報告をお願いする。

〈事務局〉 資料1・2及び別紙「千城台地区学校適正配置地元代表協議会だより第5号」をご覧いただきたい。今までの協議経過について、簡単に説明する。

〈第11回協議会〉

○小学校は、小規模校故に授業や行事等の教育活動において、様々な支障が出ている。これらを解消・軽減する意味からも、適切な学校規模とすることが大切であるという視点から、小学校について、適正配置が必要であることが合意さ

れた。

<第16～20回協議会>

○小学校の統合シミュレーション51通りのうち、A・Bの2案に絞り協議を行ったが、両シミュレーションとも合意に至らなかった。このことから、協議の流れを変更し、シミュレーションBの論点の1つになっていた「中学校の統合の必要性」を先行協議し、中学校の方向性を踏まえて、再度、小・中学校の統合協議をまとめていくこととした。

<第23回協議会>前回協議会

○各団体の報告を踏まえて、「中学校の統合については、適正規模とするための必要性はあるが、今回の統合は見送る」という方向性を大筋の合意とする協議を行ったが、一部委員から、「合意はしていないため、全員一致を原則とする協議会の議決とは認められない」旨のご意見をいただき、全会一致の合意には至っていない。

○次回は、これまでの協議を総括して、小・中学校の統合協議を進めていくこととした。

<山崎議長> ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

<一同> 特になし

報告(2) 平成26年度に算出した推計(速報値)による千城台地区の小・中学校の状況

<山崎議長> これまでの協議状況について、事務局から報告をお願いします。

<事務局> 次の点を説明する。

- ・26年度は実数、27年度以降は推計(速報値)を示している。
- ・小学校については、昨年度と比べて、西小が大幅に増加、東小がわずかに減少、南小がわずかに増加している。
- ・中学校については、南中も西中も、ほぼ変わらない状況である。
- ・26年度の特別支援学級については、小学校では、北小に知的・情緒学級が5学級、言語学級が3学級、計8学級が設置されている。中学校では、西中に知的・情緒学級6学級が設置されている。

<山崎議長> ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

<一同> 特になし

報告(3) 前回協議会およびそれ以降の動きについて

<山崎議長> 「前回協議会以降の動きについて」、事務局から報告をお願いします。

<事務局> 「前回協議会以降の動き」について、以下のように報告する。

○千城台地区の「協議会だより第5号」

4月27日(日)第24地区町内自治会連絡協議会会長会后、各家庭に配布

○事務局が出向いての説明・意見交換

4月27日(日)第24地区町内自治会連絡協議会会長会

6月6日(金)新規協議会委員対象の説明会

6月18日（水）北小PTA対象説明会

- 〈山崎議長〉 次に、前回の協議会以降、各学校PTAや自治会等において、話し合いをもった団体があれば報告をお願いしたい。
- 〈栗山委員〉 南小では、6月14日のPTA常任委員会で、地元代表協議会の状況について説明した。次回、本日の協議内容を報告する予定である。
- 〈岡 委員〉 北小では、6月18日にPTA対象説明会を行った。保護者からの質問・意見は、少なかつた。
- 〈大和久委員〉 西小では、6月21日のPTA常任理事会で、地元代表協議会の協議状況について報告した。
- 〈時松委員〉 東小では、6月5日のPTA本部会議で、本日の協議会の開催についてお知らせし、7月3日の同会議で本日の協議内容を報告する予定である。
- 〈鈴木委員〉 旭小では、新年度の役員に対して、地元代表協議会の状況について説明した。
- 〈山崎議長〉 事務局や各団体からの報告に対して、質問等はあるか。
- 〈石原委員〉 教育委員会が出席した説明会等の中で、どのような意見が出たのか教えていただきたい。
- 〈事務局〉 4月27日の第24地区町内自治会連絡協議会会長会では、1名の方から、「協議だよりを配布する必要性はあるのか。小学校の統合を早く進めるべきだ。」という意見が出た。6月18日の北小PTA対象説明会でも、1名の方から、「小学校はなるべく早く統合してほしい。中学校も各学年3学級ずつの現状では、少ないのではないか。」という意見があった。
- 〈大和久委員〉 西小の常任委員会等で、「数合わせの統合ではなく、小中連携で進めていくべきだ」ということは、協議会で唯一合意されている。」と説明してきている。しかし、「協議会だより」等には、全く小中連携について書かれていないのはなぜか。
- 〈事務局〉 小中連携について、これまでの協議会では、統合の可否や形に関係なく、より推進していくことを地元の合意として要望に上げていくことは確認されているが、それ以上のことは合意に至っていないため、協議会だよりには掲載しなかつた。

(4) 協 議

議題（1）千城台地区小・中学校の適正配置について

- 〈山崎議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 報告（1）のとおり、小・中学校とも具体的な学校適正配置に関する案は、全会一致の合意は得られていないが、前回の協議の中で、「ここまでの協議内容を踏まえて、小・中学校を合わせて適正配置の結論を見出していくこと」、「今回は、新しい推計を用いて、小・中学校の協議をしていくこと」が確認されている。
- また、栗山委員から、「絞り込んだ2案（A・B）ではなく、その一步手前の6案まである資料を提示してほしい」という意見があったことを受け、今回、資料4「今年度の児童推計を用いた小学校における6つの統合シミュレーション」の資料を用意した。昨年度の推計表も付けて比較できるようにしたので、説明する。
- まず、資料を変更した部分は、次のとおりである。
- ・児童推計については、26年度は実数、27年度以降は推計（速報値）で算出し

ている。

- ・特別支援学級数の欄を表に加えた。
- ・耐震工事の必要性（工事予定）については、26年度中の実施予定と部分実施予定を示した。部分実施とは、子どもたちの教育活動に支障がなく、機能集約できる校舎については、教育活動を行う場所に限って補強工事を行うということである。その場合、耐震補強をしなかった建物については、27年度以降、立ち入りを禁じて児童も職員も入れないようにする。

次に、6つの案について、過去の協議の中で出されたポイントを説明する。

1案…統合後の両校の学校規模の差

2案…A案として残った案。北・西小統合校と、東小の単学級の発生がポイント。
西小の増加もあり、解消へ向かっている。

3案…通学区（旭小学区が他学区をまたいで登校）

4案…統合後の両校の学校規模の差

5案…B案として残った案。配置から中学校統合が必要。
教室不足について（西小の増加を受けて拡大）

6案…統合後の両校の学校規模の差

〈山崎議長〉 資料について、事務局より説明があったが、質問はあるか。

〈佐々木委員〉 保有教室数については、以前は多くの子どもたちが使っていたはずだが、教室数が減ってしまったのか。ランチルームや仕切りが入っている特別教室等は数に入れていないのか。

〈事務局〉 保有教室数とは、開校した当時に普通教室としてつくった教室の数であり、その後、特別教室に改善されていたとしても、保有教室数に入れている。

〈綿貫委員〉 1学級の人数が、昔は多かったので、教室数が変わらなくても、収まったのではないか。

〈事務局〉 それもある。保有教室に収まらない場合は、一時的にプレハブ校舎等で対応してきた経緯がある。

〈奥田委員〉 教室不足を解消する術はあるのか。

〈事務局〉 教室不足については、次のことが考えられる。

- ・特別支援学級が現状で推移し、推計もこのままで進んだ場合、仮設校舎等での対応が必要となるが、具体的には、さらなる学級増のための余裕教室を含めて、4教室程度の増設が必要となる。
- ・「より良い教育環境の充実」を目指している学校適正配置により、それまで普通教室で学んでいた児童が、一定期間とはいえ、仮設校舎で学習することになる。児童数が増える一方で仮設校舎設置に伴い、校庭も狭くなったり、同一学年が同一の階に配置できなかったりといった教育上のデメリットを生じる。
- ・千城台地区においては、県営住宅の建て替えや、ミニ開発などで西小の児童が増えている状況から、仮設校舎の更なる増設や期間延長の可能性もある。

このようなことから、教育委員会としては、学校大規模化や大規模改修の際に一時的な非常手段として仮設校舎の設置を行う場合もあるが、あくまで仮設であり、推奨できる対応ではないということは、これまでも説明させていただいている。

〈栗山委員〉 大規模校とは25学級以上と聞いているが、千城台地区は25学級以上にはならないと思う。

- 〈事務局〉 学校規模を考える際は特別支援学級の数は入らないため、千城台地区は統合しても25学級以上にはならない予定である。ただし、統合で必要となる教室数を考える際は特別支援学級も含める必要があり、教室不足が生じてしまう状況である。
- 〈栗山委員〉 北小に行った時に見学したが、特別支援学級は、1階に収まっていたと思う。
- 〈大澤委員〉 現在の特別支援学級は、交流教育がしやすいように、1階の1・2年生の間、2階の3・4年生の間、3回の5・6年生の間に配置されていると思う。
- 〈岡 委員〉 そのとおりである。今年度からそのような配置になったと聞いている。
- 〈佐々木委員〉 実際に見学した方がよいと思う。特別支援学級は、普通教室を使用していることから環境は良くはないのではないかと。
- 〈事務局〉 特別支援学級については、基本的には学級数分の教室を使用するのが原則であるが、実際は学校施設の状況や授業形態等に応じて、一緒になって学習することが多い。また、北小の言語学級の教室については、防音設備が整っている。保有教室に関し、保健室やコンピュータ室に改善された教室については、教育上必要であることから元の教室に戻すことができないが、それ以外で教室改善された教室については、修繕して普通教室に戻すことは可能である。
- 〈山崎議長〉 北小の特別支援学級を見学した方がよいか。
- 〈栗山委員〉 教室不足のことから取り上げただけなので、実際の特別支援学級の教室数がわかればよい。
- 〈石原委員〉 適正規模は、12～24学級であり、統合して普通学級が18学級になると教室が足りないというのは矛盾を感じる。プレハブではなく、本校舎を増設する等は考えられないのか。
- 〈栗山委員〉 数合わせ的なことはやめるとしているが、まさに数合わせではないか。子どもたちにとってより良い教育環境とは、教育委員会はどう捉えているのか。
- 〈氏家会長〉 議論の幅が広がってしまうと絞れない。教育委員会としての立場を確認したい。
- 〈事務局〉 教育委員会としては、千城台地区の児童・生徒数の著しい減少を受け、「子どもたちのより良い教育環境」を目指して、学校適正配置を説明し、協議の結果として、地元代表協議会を設置していただいている。また、その中では、学校規模だけではなく、さまざまな角度から適正配置の協議をしていただいております。学校が小規模校化し、支障をきたしている現状を鑑み、小・中学校とも、統合の必要性はあるということが確認されており、皆さんの意見を尊重して進めていただいているところである。
- 〈本田委員〉 全く質問に答えていない。
- 〈大和久委員〉 教育委員会からは、各学年3学級は良いと聞いているのに、教室不足となるからできないということは、どうなのか。
- 〈教育総務部長〉 プレハブ校舎の増築については、非常手段ではあるが、絶対にできないということではない。教育委員会としては、推奨はできないという立場であることはご理解いただきたい。
- 〈大和久委員〉 そういうことであれば、理解した。
- 〈本田委員〉 時間をかけて話し合うことに、価値があるわけではない。大人たちの都合で長引いて4年間できなかった。もっと重要なことを忘れてはいけないと思う。それは、「子どもたちにとって何をどうすることが最も良いことなのか」という点である。協議期間も、結論を出す日のターゲットを定めて進めるべきである。子どもたちのことを考えるならば、討議を早め、結論を早期に導き出すべきだ。

- 〈大和久委員〉 そのとおりである。子どもたちのことを考えていけば、子どもたちや先生方に接しているPTA側の意見に、自治会側も賛同していただきたい。
- 〈本田委員〉 それはできない。私たちは、自治会の意見を背負って来ている。自分の自治会としてはNOの意見の方が多い。
- 〈栗山委員〉 どういう意味か。
- 〈本田委員〉 賛同できないが、持ち帰って話し合うということである。
- 〈笹川委員〉 南町自治会では、28年度に統合すると伝わっているようだ。
- 〈本田委員〉 全くない。出所がわからないが、一切聞いてない。
- 〈笹川委員〉 自分が居住している地域の班長から聞いた。
- 〈本田委員〉 南町自治会としては、そういうことは報告していない。
- 〈事務局〉 議論が部分的になっているので、まだ意見を述べていない委員のご意見もお聞きしたい。
- 〈鈴木委員〉 こういう資料を示していただくことは、ありがたい。持ち帰って話し合いたい。
- 〈林 氏〉 代理で出席しているが、西中のアンケート結果については把握している。小学校の統合については、小学校の保護者の方々にも聞いているが、早く統合してほしいという意見が多い。方向性をもって進みたいと考える。
- 〈阪下委員〉 小規模校となり、音楽や図工の専科教員がいないのは、かわいそうである。自分の子どもも4人、小学校に通わせた。一番上の子の時は、1000人近くいたので、音楽や図工の専科教員がいたが、下の子になるにつれて専科教員がいなくなった経緯がある。ぜひ、子どもたちの教育環境を良くしていきたい。
- 〈林 委員〉 個人的な意見であるが、新しい学校を建てれば、どこからも平等となり、教室不足も起こらないのではないか。
- 〈山崎議長〉 既存の校舎を使用することが前提となっているので、ご理解いただきたい。
- 〈笹川委員〉 次のPTAの報告会では、何を話し合えばよいのか。
- 〈山崎議長〉 中学校の統合については、両中学校のアンケートでは、今は統合の必要性がないという結果となったことは協議会で報告されている。
- 〈佐々木委員〉 例えば、統合時期を何年として設定して、聞いてみてはどうか。御成台の自治会では4年前に一度アンケートを取っただけである。役員会では、話題にしているが、全体の総意とはいえないと思う。取りまとめているのは、自治会代表であるので、PTA側の意見も含めて、アンケートなどをお願いしたい。
- 〈谷野委員〉 できないところではなく、できるところを探していこうということである。プレハブ校舎については、子どもたちにとって環境的に悪いのではないか。5年間話し合ってきた中で、統合ができることを進めていきたい。
- 〈笹川委員〉 仮に2小1中とした場合、小学校のシミュレーションの3番が一番良いのではないか。
- 〈山崎議長〉 中学校については、統合は必要であるが、今回は見送るという条件が付いている。
- 〈栗山委員〉 例えば、統合時期を条件付で平成30年度とした場合、現在の中学生は卒業している。
- 〈山崎議長〉 条件付ということは、その時に統合しましょうということか。
- 〈佐々木委員〉 準備期間を十分とって、そこで校舎の改修等をすればよい。小学校の跡地を売却してその費用で中学校を改修すればよい。先日、市長と会う機会があったが、13学級以上がよいと考えているようである。
- 〈山崎議長〉 平成30年度に中学校を統合した場合、小学校も同時に行うということか。
- 〈事務局〉 子どもたちに統合を2度経験させないためには、統合時期は次のとおりとなる。

①中学校を先に統合する。②小・中学校を同時に統合する。③小学校の統合後1年後に中学校を統合する。④小学校の統合後8年後に、中学校を統合する。

- 〈栗山委員〉 平成30年度に統合するというので、話し合ってみてはどうか。
- 〈鶴岡委員〉 協議が長引いているが、プレハブ校舎については設置できるということであるならば各学年複数学級にすることは基本であり、充実したプレハブ校舎を建ててもらえばよい。自治会側は、自治会の意見をまとめて報告する立場であり、大変であると思う。
- 〈諸橋氏〉 平成30年度に統合とすれば、統合できるのか。
- 〈栗山委員〉 早く決めて、準備期間を長くとっていくことが重要だと思う。
- 〈奥田委員〉 アンケートにしても、協議会で決まったことは受け入れると思う。統合時期を決めてしまえば、方向性ははっきりして、心構えや準備も早くできる。建設的な意見を出し合っていける。
- 〈山崎委員〉 この協議会自体がおかしいと思う。何に向かって話し合っているのか。最近は、PTA側対自治会側となってしまうている。街づくりの会議ではない。PTA会長は、現在子どもの親であり、一番理解していると思うので、自治会長に協力してもらえばよい。特に、小学校は切羽詰まっている。
- 〈阪下委員〉 初めての参加であるが、PTA側対自治会側となっていることについては、理解できない。
- 〈谷野委員〉 すべてを反対しているわけではない。どこが共有できるか考えて進めている。行政側の求めているところが見えてこない。
- 〈事務局〉 学校側対自治会側とはなっていないと考える。中学校の統合については、小学校は賛成しているが、中学校はアンケート結果から反対している。また、自治会側は当事者である中学校が反対していることを受けて、統合を見送る意見に賛同している状況があったと思う。
- 〈栗山委員〉 教育委員会側は、どういう方向にもっていきたいのか。
- 〈佐々木委員〉 2小1中にする方向性については、教育委員会から提案があったことである。増築が推奨できなくても、ぜひ可能にしてもらいたい。
- 〈栗山委員〉 統合できないのなら、千葉市で行っている38人学級編制を半分にして19人ずつにしてもらえばよい。
- 〈笹川委員〉 今回の協議を受けて、何を持ち帰っていいのか、わからない。
- 〈事務局〉 本日の協議を振り返ると、中学校の統合については、今の中学生が全員入れ替わる平成30年度としてはどうかという意見があった。これを受けて、中学保護者代表は、平成30年度に中学を統合することについて、意見を聞いてきてはいかがか。また、小学校保護者代表は、中学校が統合を反対している理由を再度、確認し、それでも平成30年度には統合を希望するのかの確認をしてきてはどうか。また、自治会は、中学校の意見を尊重し、統合を見送ることに同意してきたが、もし、中学が統合してもよいとなった場合は、統合に賛成するのかどうかを話し合ってきてはどうか。ただし、平成30年度に統合というのは、協議会としての方向性ではなく、協議の中で出てきた一つの意見であるので、あくまで、意見を聞いてくることにとどめるということではいかがか。
- 〈本田委員〉 自治会として、本日の協議を持ち帰るとして、アンケートを作成しなければならない。
- 〈綿貫委員〉 できれば統一したアンケートにしたほうがよい。
- 〈佐々木委員〉 自治会の役員会だけでは、総意といえないと思う。アンケート等をとって、できるだ

け多く人の意見を吸い上げていただきたい。

〈本田委員〉 実際は、回覧で回す程度しかできないと思う。

〈栗山委員〉 できる範囲でやっていただければよい。

〈本田委員〉 例えば、アンケートを取る場合、統一したアンケートではなく、出席者の勝手な理解だけでアンケートを作ると、内容によっては答えをある方向に誘導することにもなりえる。

〈諸橋氏〉 自治会としては、いろいろな活動がある中で、役員会で話し合うしかできないと思う。

〈谷野委員〉 東町自治会は、1350世帯ある。アンケートを配布・回収することは大変困難かと思う。

〈栗山委員〉 先ほども述べたが、できることでよいと思う。

〈佐々木委員〉 私が、学校の代表だった時は、時間を割いてアンケートを作成し、全校に配布・回収し、意見をまとめてきた。

〈山崎議長〉 それでは、各団体でできることをやって、意見を吸い上げていただきたい。

〈事務局〉 教育委員会で協力できることがあったら、ぜひご連絡いただきたい。

議題（2）次回開催日時・場所

〈山崎議長〉 協議（2）「次回開催日時・場所」に入る。事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 概ね2か月に1度のペースで、「金曜日の夜に開催する」ということで実施してきたが委員の方々から、「金曜日は週末で集まることが厳しいので、水曜日あたりにできないか。」という意見が出ているので、水曜日を基本としてよろしいか。

〈一同〉 異議なし（了承）

〈事務局〉 具体的には、2か月に1度のペースで進めており、9月上旬から議会も始まることから、8月下旬ごろでいかがか

〈佐々木委員〉 議会の都合というのは、教育委員会側の理由である。できれば、7月に開催できないか。

〈栗山委員〉 早目に開催してほしい。

〈諸橋氏〉 自治会としては、月1回のペースで役員会を行っているので、2回程度の期間はほしいことから、8月下旬ぐらいでよい。

〈山崎議長〉 8月下旬ごろで意見が出ているが、具体的な案があるか。

〈事務局〉 8月27日（水）でいかがか。

〈佐々木委員〉 次回協議会を8月下旬に開催するということは、28年度の統合はあきらめるということか。

〈事務局〉 以前とは異なり、消費税のアップや2010年のオリンピックの影響等で、工事の入札が難しくなっていることや、統合場所によって施設改修のボリュームが変わるため、ある程度、統合場所が決まっていないと、工事計画が立てられず、具体的な統合年度を設定することができない状況がある。したがって、統合の組合せや場所が、大方絞られてきたときに、最短でできる統合時期や、改修工事の期間などの準備期間を提示させていただくことになる。

〈氏家会長〉 次回までに、統合の組み合わせ、場所まで、各団体に話し合ってくればよい。

〈一同〉 無理である。

- 〈本田委員〉 もっと明確なビジョンを決めないと、持ち帰って話し合うことができない。
- 〈氏家会長〉 中学校の統合については、統合する必要性については確認できている。統合時期をどうするか。平成30年度とする理由が、やや後ろ向きな理由であり明確でない。
- 〈本田委員〉 平成30年度とする具体的な理由がはっきりしないと、アンケートも取れない。
- 〈氏家会長〉 第24地区町内自治会連絡協議会でのアンケート結果については、協議会で報告しているが、A案は59%、B案は22%、その他は19%となっている。
- 〈諸橋氏〉 本日の協議から、中学校は1校に統合し、平成30年度とするということによいか。
- 〈栗山委員〉 例として、平成30年度の統合とした。協議会では、まだ了承されていない。
- 〈本田委員〉 もう少し煮詰める必要がある。
- 〈栗山委員〉 持ち帰る案を煮詰めるために、7月に開催していただきたい。
- 〈山崎議長〉 明確なビジョンがほしい。もう少し協議する必要があるという意見が出ている。
- 〈本田委員〉 次回協議会まで2か月置く必要はない。
- 〈山崎議長〉 7月下旬あたりということか。
- 〈佐々木委員〉 できれば、学校側で、説明材料のたたき台を作ってくれればよい。
- 〈事務局〉 学校側の小・中学校で、説明材料等を話し合ってくる時間も必要かと思うので、やはり8月27日（水）としてはいかがか。
- 〈氏家会長〉 それぞれの団体で、中学校の統合時期についてどうするかを検討してくればよいのではないか。中学校の時期設定を踏まえて、小学校のA案・B案のどちらにするかを協議していけばよい。
- 〈綿貫委員〉 これとこれを話し合ってくるなど、明確な論点をはっきり決めないと持ち帰れない。
- 〈山崎議長〉 事務局で、論点をつくることはできるのか。
- 〈栗山委員〉 自治会としては、協議会を8月でなく、7月にすると支障があるか。
- 〈綿貫委員〉 自治会は、月1回のペースで役員会を行っているので、2か月程度の期間はほしい。
- 〈諸橋氏〉 再度確認するが、教育委員会で論点を作ってくれるのか。
- 〈事務局〉 協議会としての方向性が出たわけではないため、教育委員会から論点を提案することは難しい。
- 〈栗山委員〉 アンケート等でどういうことを聞くのかを含めて、具体的な説明材料を検討しなければならないため、まずは7月に開催した方がよい。
- 〈事務局〉 それでは、次回協議会は、7月30日（水）18：30～千城台公民館でいかがか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）

（5）連絡

- ・ 次回協議会は、7月30日（水）18：30～20：30、千城台公民館で開催する。
 - ・ 本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。
- また、委員の確認を経て修正・確定した議事要旨と、本日承認された委員名簿を教育委員会ホームページで公開する。（*一同：異議なし）
- ・ 本日の協議内容について、各団体の方々にもお知らせいただきたい。

（6）会長挨拶（氏家会長）

本日も、大変熱心な協議に感謝する。次回協議会は、話し合いの視点をもっとクリアにして進めていきたいので、よろしく願います。